

# 第42号

(2022年5月1日発行)

発行:中央大学学会 出版白門会

## CONTENTS

(お名前は敬称略)

▽2022年新年会中止と令和4年度活動について	1
▽追悼：小谷哲也さん（松村みか）	1
▽出版白門会と箱根駅伝（丹田公和）	2
▽白門同窓生の本	2
▽白門太陽傳～闘い挑んだ強者たち～〈2〉 「恥ずかしがり屋のブルース～谷啓という美学～」	3
▽会員の皆様からの近況報告	3
▽第21回能楽鑑賞会に参加して	4
▽幹事会活動について	4
▽告知板	4
▽編集後記	4

### 出版白門会の関連行事予定

- ①会報発行 5月1日
- ②第22回 出版白門会総会  
7月15日（金）  
会場：出版クラブ（神保町）4階  
会費：6,000円  
※後日、出欠確認を兼ねたご案内をお送りいたします。
- ③街歩き企画 秋ごろ  
※詳細が決まり次第、HPと会員メールにてご案内いたします。
- ④白門祭
- ⑤第22回能楽鑑賞会  
12月10日（土）12時開場 13時開演  
会場：国立能楽堂（渋谷区千駄ヶ谷4-18-1）/  
JR千駄ヶ谷駅より徒歩5分  
狂言 内沙汰（うちさた） 佐藤 彦彦（和泉流）  
能 竹雪（たけのゆき） 武田 孝史（宝生流）

■行事に関するお問い合わせは、下記メールでご連絡ください。  
E-mail:pub.hakumon@gmail.com  
なお、上記記事のほか、皆さまの仕事に役立つ企画、あるいは懇親の企画を検討中です。



出版白門会ホームページ QR コード



● 出版界に出版白門の知恵と情熱を！ ●

#### ●基本方針

1. 会員ニーズに応える活動による、会員満足度の向上
2. 中央大学、学会、他支部との連携強化
3. 会費徴収促進による、財政の健全化

## 2022年新年会中止と 令和4年度活動について

2年ぶりのリアル開催を予定していた「2022年新年会」は、年明けからのオミクロン株の猛威による新型コロナウイルス感染者の急拡大を受け、誠に残念ではありますが、参加者の安全を最優先し、中止とさせて戴きました。講師をお引き受け戴きました中川順一氏、そして楽しみにされていた参加者の皆様、申し訳ありませんでした。

開催日である1月21日から13都県にまん延防止等重点措置が適用されており、今回の中止の判断については、会員各位のご理解を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

令和4年度活動については、7月開催

予定の定期総会でご提案致しますが、コロナ禍における会員満足度を高める事業について、幹事会で検討を重ねております。そして、令和3年度においては時限措置として会費徴収なしとしましたが、令和4年度については、徴収させていただきます。令和2年度の会費納入者は46人までに減少しており、この状況が続くと、今後の会の運営にも支障が生じます。出版に関わる中大出身者の絆が存続し、また、後に続く後輩たちのために出版白門会の灯を消さないためにも、同封しております「振込用紙」での会費納入をお願いいたたく、何卒よろしくようお願い申し上げます。

## 追悼：小谷哲也さん

かつて中央大学にグループH（GH）という団体があったのをご存知でしょうか。法学部生から大学職員となった小谷哲也さんが就職課で学生の相談を受けるなかで、当時少数派だったマスコミ志望者を指導したのがGHの始まりだと聞きました。その小谷さんが、2022年2月1日に90歳で永眠されました。

私はキャンパスで見かけたアラスカ旅行募集がきっかけでGHを知りました。マスコミ希望ではなかったため政府開発援助の道に進みましたが、GHとの交流

は続き、その刺激が小説を書く原動力になったと思います。GHは直木賞作家の逢坂剛さんや門田隆将さんを始めた表現者や、フジテレビ社長となった太田英昭さん、元講談社副社長の森武文さんなどメディアを代表する組織のリーダーを大勢輩出しています。中央大学はマスコミ人材が少なかったため、新聞、雑誌、テレビ、広告といった分野に就職したOGOBOをつなぐゆるいグループを作ることによって刺激を与え、切磋琢磨させたのでしよう。小谷さんの定年退職後もOBOG会が開かれ、コロナ感染拡大防止で中断するまで続いていました。その功績は出版白門会と通じるものがあります。

学生教育と白門をつなぐ社会貢献に尽力された小谷哲也さんのご冥福をお祈り致します。

松村みか（小説家：松村美香）/ 中央大学経済学部客員講師（海外インターンシップ演習）



## 出版白門会と箱根駅伝

今年の箱根駅伝、中央大学は10年ぶりにシード権を獲得した。第1区で、昨年は期待されながらブレーキとなった吉居が快走し、2位以下を大きく引き離し、独走する姿は全国の中大関係者の10年間の鬱憤を晴らすものだった。

しかし、箱根駅伝過去総合6連覇、最多14回の総合優勝を誇り、常に「名門」「伝統校」という冠が付いた中大の駅伝が、ここ10年、シード権獲得が目標になっていたことは昔を知るOBには情けないことだった。

以下、出版白門会の新年恒例となった箱根駅伝応援を振り返ってみたい。

出版白門会は2000年10月に設立されたが、箱根駅伝のゴール前応援は2003年からスタートし、その後、毎年恒例事業となった。2003年は総合5位、前年が4位、前々年が3位で当時は優勝を狙うのは当然と思われていたのだから、近年のシード権争いで汲々としているのとは隔世の感がある。

2004年～2012年頃になると、2005年と2010年の4位を除き、かろうじてシード権を確保する状況に至り、2007年の試合終了後の「中大はシード権争いを

するようなレベルではない」との選手挨拶が、逆にシード権争いをするレベルになってしまったことを印象付けた。

2008年は大会前に発熱者が続出して7位、2009年は10位でかろうじてシード権は持ち堪えたものの2013年には第5区の選手が脱水症状で棄権し、28年連続でシード権を獲得してきた伝統が途切れた。それ以降は毎年シード権を取ることができず、立川の予選会に毎回応援に行くことが恒例になってしまった。

そして2016年の立川での予選会で落選すると、ついに伝統の櫂が途切れた。シード権を獲得することができない屈辱を味わった苦節10年を経ての今回の6位入賞、復路では途中まで3位の可能性もあった復活の兆しに期待し、出版白門会の応援にも賑わいを取り戻したいものだ。

なお、この間、箱根駅伝応援後の懇親会を通じて39人や57ネットの皆さんと交流ができたことは楽しい思い出になっている。(丹田公和)



順位	大学	タイム
総合1位	順天堂大学	10:43:42
総合2位	順天堂大学	10:54:33
総合3位	別荘大学	10:54:57
総合4位	東洋大学	10:54:59
総合5位	東京国際大学	10:56:14
総合6位	中央大学	10:55:44
総合7位	創価大学	10:56:30
総合8位	國學院大学	10:57:10
総合9位	帝京大学	10:58:06
総合10位	法政大学	10:58:46
10位以内シード権		
総合11位	東海大学	10:59:38
総合12位	神奈川大学	11:00:00

## 白門同窓生の本

『いま、子どもの本が売れる理由』

飯田一史 著 筑摩選書 本体1980円(税込み) 2020年7月15日初版発行

353頁に及ぶ本書は、タイトルの『いま、子どもの本が売れる理由』というテーマだけではなく、実に多角的な視点から、児童書の世界を俯瞰した力作である。

前半は「こどもの読書環境はいかに形成されてきたか」ということで、「児童文学史」「子供文化史」「子供世相史」「児童書出版史」「児童書販売史(出版営業・取次・書店)」「読書教育政策史(学校図書・学校司書・図書館)」等々の観点から、データを駆使して書かれた子どもの本に関わる通史である。

テーマが多岐にわたり、詳細に踏み込むことは紙面上困難なので、以下のキーワードから本書に記載された時代の雰囲気の一部を時系列に読み取っていただきたい。

- ①60年代に花開き、70年代にはさらに花開いた創作児童文学。
- ②1953年の学校図書館法の制定・施行と学校図書館市場の形成。
- ③「図書館ルート」の確立。出版社の巡回グループと書店との同行販売。
- ④書店外商や専門販社による全集・事典等の家庭訪問販売の隆盛。
- ⑤高度成長と高学歴主婦の誕生による、子どもの教育への関心の高まり。

⑥学年誌の隆盛。少年・少女雑誌が月刊から週刊誌の時代へ。

⑦多様化し拡大する漫画市場。テレビアニメやゲームと連動した企画や販売政策。

⑧読書力向上を図る、学校図書館の充実と司書教諭設置を促進する国の施策及びその成果。

⑨読み聞かせ活動、読書感想文コンクール、ブックスタート、「朝の読書」実施校の伸長、等による読書推進の成果。等々……。

子どもの本には「教育」「娯楽」「実用」等、幅広いジャンルがあり、それぞれに対して作家、出版社、販売会社、書店からの取り組みの歴史があり、その時代、時代の出版人の悲喜こもごもが本書から伝わってくる。

後半は主として良く売れた雑誌、書籍についてタイトル別にその理由を分析している。「なぜ売れたのか」を後から解説することはどうしても、後付けの感を免れないことになりがちだが、本書では他の媒体の多くの人の意見を併記して、その弊害を避けることに努めている。

子どもの考え方、家庭や社会・学校が子供の行動に与える影響を分析したうえで、子供の購買行動を解説している。



子どもの本は、すごい!  
売れない時代、  
子どもの本はなぜ売れる?

(広報委員・丹田)



谷啓（たに けい、本名・渡部泰雄）は1932年（昭和7）東京生まれ。トロンボーン奏者、コメディアン、俳優。中央大学経済学部中退。逗子開成高校時代の吹奏楽部の仲間を追って中大に入学。音楽研究会（音研）のスイング部に入部して（この頃吹奏楽部とスイング部は未分離）ジャズに打ち込んだ。当時の音研は他に軽音楽や室内楽（後管弦楽）、マンドリン、ハーモニカ、合唱、音楽鑑賞などの団体があった。ちなみに高木ブーはハイアン部、少し遅れてダン池田がタンゴ部に所属した。在学中より原信夫とシャープス&フラッツで活躍。出番の合間、締め切り間近だった学費の払い込みに行き、駿河台2号館の窓口が混んでいたため中退を決意したことは、部内に語り継がれ、自伝『七人のネコとトロンボーン』（読売新聞社刊）にも詳しい。（編）



志賀 コージ（しが こーじ）

1958年東京生まれ。イラストレーター、エッセイスト。数々の名作映画から人生を学ぶ。心打つ映画に触発され10代から描き続けているスタアの似顔絵はゆうに千枚を超える。近年は名作映画の魅力と共に、あらゆるエンターテインメントの芸術的遺産と感動の数々を、イラストを通して伝えることをライフワークとしている。[著書]『映画スタア似顔絵 昭和館 シャイでクールでお熱いのが好き』、『映画スタア似顔絵 昭和・平成館 続シャイでクールでお熱いのが好き』（いずれも里文出版刊）

# 白門太陽傳

闘い挑んだ強者たち〈2〉

## 恥ずかしがり屋のブルース

～谷啓という美学～

志賀 コージ

1960年代を席卷した、ハナ肇とクレージー・キャッツ。その中心にいたのは、無責任男・植木等ですが、もうひとり、独特のキャラで異彩を放っていたのが谷啓でした。彼は中学生の時にトロンボーンに魅せられ、戦後に進駐軍によって本場のジャズが広まると、高校生でありながらキャバレーでいっぱしのバンドマンとしてアルバイトをするようになり、やがて中央大学に進むと音楽研究会に所属して腕を磨くのでした。ここでの一年後輩に、後の高木ブーがいます。中大在学中からその演奏は評判を呼び、ジャズ界の雄、原信夫にスカウトされて、シャープス&フラッツに参加するのです。その後、紆余曲折を経てクレージー・キャッツのメンバーとなり、あの「ガチョーン!!」が誕生します。

これは、麻雀好きの彼が牌をツモる際に発した言葉に由来しますが、昭和を代表する至宝の一発ギャグとして、今なお私たちの心に生き続けています。

一方で、谷啓は無類の恥ずかしがり屋でした。結婚する時も、業を煮やした夫人の方からプロポーズしたり、自ら考案したネタを自分の口から進んで発表出来ずにいたそうです。そんな男が、ミュージシャンとして聴衆の心をスウィングさせ、コメディアンとして笑いのツボをくすぐるのですから不思議です。

しかし、その胸の内には大いなる葛藤もあったはずですが、ただ飄々と時代を駆け抜けたわけではないでしょう。一流であるがゆえに、「仕事」に対して極めて“潔癖”であり続けた人だと思えます。いつも、恥ずかしさと至高のギャグとの間で、メトロノームのように揺れていたであろう谷啓は、アリのような心臓で、鳥のように虹を架けました。

2010年、トロンボーンの響きと共に、希代の恥ずかしがり屋は、9月の空へ旅立ちました。

### 会員の皆様からの近況報告

#### ・泉谷 渉（産業タイムズ社）

オミクロンの爆裂拡大の中にあっても、全国を飛び回る取材活動および講演活動については、まったく止まることはありません。

また、代表取締役社長は辞任致しましたが、諸般事情もあり改めて代表取締役会長に就任しました。最近では、動画配信番組も作り始めており、記事の取材と動画撮影の両方をこなすために、ますます繁忙であります。

#### ・松下 浩（東京アドレップ）

学生時代にサークルでお世話になった駿河台で卒業した先輩が昨年暮れになくなりました。偲ぶ会を開きますが私は多摩世代なので前世代の中大生の思い出の場所がわかりません。「ここぞ」というスポットがありましたらぜひご紹介ください。

#### ・丹田公和（毎日新聞出版社 OB）

コロナ禍で、市から委託されています講習会のスタッフや講師の仕事が立て続けに中止になっていますが、地域の自然林保護活動や地域歴史ガイド養成プロジェクトなどで、この時期でもやることが多々あります。

## 第21回能楽鑑賞会に参加して

12月11日(土)に能楽鑑賞会がありました。昨年引きつづき「コロナ禍」の中での厳重な管理の下、国立能楽堂で

狂言 伯母ヶ酒(おばがさけ) 大藏彌太郎(大藏流)  
能 巻絹(まきぎぬ) 佐野由於(宝生流)  
を鑑賞しました。

例年、「能楽鑑賞会」のマネージャーをして下さっている白石さんが体調不良で参加が見込めない旨を事前に伺っており、丹田さんと担当をシェアして当日を迎えました。

準備もあるので早めに国立能楽堂に赴いたところ…体調不良の白石さんが受付にいらっしゃるではないですか!とても驚きました。何うところ、「体調は万全ではないが、休み休み歩けば何とか大丈夫!」とのことでしたので安心しました。

狂言は現代でいう「お笑い」な感じで、随所に「ぷっ!」という様な笑いが館内に響き渡りました。

能は(メインにもかかわらず)今回私にとっては難しい内容で途中からはスリーピングタイムに。

ある男が絹を熊野権現に届けることになるが、期日に間に合いませんでした。途中の音無天神に立ち寄り、参拝を行いました。そこで冬梅の香りに心を惹かれ心の中で一首の歌を詠み神に捧げてきたことが

期日遅れの原因だったようです。納品が遅れたことにより男は捕えられますが、音無天神の巫女が現れ、男の上の句を読んだ後に続く下の句を巫女が詠み続け、遅れた理由がわかり、男の疑いが晴れる…こんな内容の舞台でした。

鑑賞会終了後は本来であれば懇親会がありますがコロナ禍でレストランも休業ですのでオフィシャルな会は中止し、千駄ヶ谷駅近くで有志が集まりつかの間の時間を楽しみました。

(広報担当:北村)



## 幹事会活動について

我々、出版白門会幹事会は毎月第2木曜日18時30分~仮移転先の駿河台記念館にて会議を行っております。しかし、ここ2年間は「コロナ禍」により、Zoomを活用し、リアルでの会議風に議論や意見交換を行っております。「Zoom会議」という言葉が今となっ

ては十分市民権を得てはいますが、PCを活用した会議だけでは「伝わらない何か」があるように感じます。会員の皆様同士の交流が「コロナ禍」が明けて活発になるまで幹事会としても精一杯頑張りますので、応援を宜しくお願い申し上げます



## 編集後記

年が明けて令和4年、いつもと違う正月を2つ味わいました。

1つ目は、我々OBの正月の2日・3日の「箱根駅伝」の応援には例年になく力が入りました。往路1区、吉居選手の踏ん張りで「1位」の映像がテレビの画面を駆け巡りました。例年の予選会からのスタートの我が母校が「1位!」泣けてくる映像でした。復路も「白門らしい」粘りの走りを見せ、何と「総合6位」シード権奪取です!この勢いをもって更に上を目指し令和5年の箱根駅伝を迎えて欲しいです。

2つ目は、個人的な話ですが娘の中学受験です。2月の本番に向けカウントダウンの始まった1月、思うように点数が伸びない算数との闘い。昨年10月からは志望校の過去問を解き、その直し(算数)を「ババ塾」という形でフォローしました。コロナ禍で中学受験がどうなるか不明な部分も多々ありました。中学受験を目指すご家庭は「コロナ禍でも学びを止めない指導をするのが私学」という選択を例年になく選択されたようで「例年になく激戦」が展開されたようです。1月のお試し校の合格はいただいていましたが…2月の本命校からは中々ご縁を頂くことができず「心折れる」寸前でした。急遽作戦変更した「滑り止め校」に何とかご縁を頂くことができ、本人以上に親としても肩の荷が下りた気がします。共に「苦労した後の喜び」は格別な感覚を覚えました。(北村)

### 告知板

#### ■出版白門会ホームページのご案内

- アドレスは <http://pub-hakumon.jimdo.com/> です。Google や Yahoo! といった検索サイトで「出版白門会」を索すると上位にヒットしますので、そこからのアクセスも可能です。
- 1頁にも掲載しましたが、スマホ/モバイルデバイス(iPadなど)にてQRコードを読み取ると、ホームページにアクセスしますので、ご利用ください。
- 出版白門会事務局へのご連絡は下記メールアドレスをご利用ください。  
E-mail:pub.hakumon@gmail.com です。

#### ■令和4年度会費納入のお願い(年会費金額¥5,000)

- ①下記口座へお振込みをお願いいたします。

郵便振替口座記号番号 00180-8-600659

加入者名 中央大学学生会出版白門会

振込用紙がなくても、直接郵便局の窓口やATMでも手続きができます。ゆうちょ銀行の口座をお持ちの方は、ゆうちょダイレクト(パソコン、携帯、スマホなど)もご利用いただけます。

- ②他行(銀行など)からの振込みをされる場合は下記口座をご指定のうえ、手続きして下さい。

ゆうちょ銀行 当座預金

店名(店番) 〇一九(ゼロイチキユウ)

口座番号 0600659

口座名義 チュウオウダイガクガクインカイシュッパンハクモンカイ

出版白門会は皆様の会費のみで運営しております。ご協力のほど何卒よろしくをお願いいたします。